



出典:『週刊朝日』1956年2月5日号

生誕百年記念

井上有一

2016年1月2日(土)→

2016年3月21日(月・祝)

展覧会名	生誕百年記念 井上有一		
会期	2016年1月2日(土)→3月21日(月・祝) 開場時間 / 10:00~18:00 (金・土曜日は20:00まで)、ただし1月2日・3日は17:00まで 休場日 / 毎週月曜日(ただし1月11日、3月21日は開場)、1月12日		
会場	金沢21世紀美術館 展示室7~12、14	作品点数	217点 ※期間中展示替えあり
料金	一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ※本展観覧券で同時開催中の「ザ・コンテンポラリー3 Ghost in the Cell:細胞の中の幽霊」・「コレクション展2」にもご入場いただけます。 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金 前売りチケット: チケットぴあ TEL 0570-02-9999 (Pコード[本展観覧券] 767-201) ローソンチケット TEL 0570-000-777 (Lコード[本展観覧券] 53730) 販売期間: 11月14日より3月21日まで		
主催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]		
助成	一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守		
協力	京都国立近代美術館、株式会社ウナック トウキョウ		
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

本資料に関するお問い合わせ

金沢21世紀美術館 企画:秋元雄史 事業担当:立松 広報担当:落合
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

戦後の日本現代美術を代表する井上有一(1916~1985年)の生誕百年を記念する大回顧展です。有一は、戦後まもなく世界的に高い評価を得た数少ない日本の現代の書家です。

有一は、紙と墨からなる「書」を現代芸術の文脈の中で、個人の表現物として開花させました。本展では、初期から晩年までの200点を越える代表作によって井上有一芸術の核心に迫ります。

出品作品は、1955年、抽象表現主義と呼応した抽象書「作品」シリーズ、1957年、サンパウロ・ビエンナーレ国際展に出品した初期の代表作《愚徹》、ポンドや凍らせた墨など、素材と描法に工夫を凝らした《好》《母》《風》などの60年代、思想と生き様の一致した《貧》などの70年代、また70年代末から80年代へと晩年に向かい豊かな世界を形成した《鳥》《月》《刎》《鷹》などが並びます。

一字書だけでなく、他の代表的なスタイルの作品も展覧されます。戦争の悲惨さを自らの体験によって作品化した《東京大空襲》《噫横川国民学校》などの多文字書、語りながら書いた「言葉書」シリーズの《草野心平詩 蛙誕生祭》《宮沢賢治童話 よだかの星》などのコンテや鉛筆、木炭による書、死に向き合って制作された《宮沢賢治童話 なめとこ山の熊》、臨書《顔氏家廟碑》《上》、また絶筆ともいえる《心》。有一が生涯こだわった型破りで自由な書の世界を、生涯にわたって制作した作品群の紹介を通じ、回顧展形式で紹介します。

本展キュレーター 金沢21世紀美術館館長 秋元雄史

展覧会の特徴

過去最大規模の回顧展！

世界的に評価の高まる井上有一の生誕百年を記念する展覧会の決定版

近年、改めて井上有一の評価が高まってきています。海外での評価も高く、ニューヨークなどでも展覧会が開催されています。特に今年は井上有一生誕百年にあたり、より注目が高まり各地で大小多くの展覧会が行われています。

井上有一の回顧展はこれまでも数多く開催されてきました。その中で最大のものは、京都国立近代美術館の「大きな井上有一展 YU-ICHI works 1955-85」(1989)で、展示点数は107点でした。それを上回る200余点を展示する今回の展覧会は、初期から晩年までの作品を揃え彼の世界を余すところなく紹介する井上有一展の決定版であるとともに、生誕百年を記念して井上有一の書を検証する過去最大規模の回顧展です。有一芸術を語る上で欠かせない重要な作品を前期と後期に分けて紹介し、ダイナミックに展開する有一芸術の全貌を捉えます。

美術館収蔵品とプライベートコレクションで構成、井上有一の代表作が揃う

1989年、京都国立近代美術館他で開催された「大きな井上有一展 YU-ICHI works 1955-85」は井上有一の芸術の評価を決定づける展覧会でした。その際、重要なパートを担った作品が現在京都国立近代美術館で所蔵されている作品群です。今回の展覧会では、その中から31点を展示します。また初期の傑作として知られる国立国際美術館所蔵の《愚徹》、有一自身の戦争体験を七言絶句で綴った群馬県立近代美術館所蔵の《東京大空襲》や《噫横川国民学校》など、各館所蔵の代表作も揃います。さらにこれまで展示機会の少なかった個人所蔵の重要な作品群も。そこには《母》《愛》《花》《貧》《舟》《鳥》などの一字書やその連作、《仏光国師偈》などの多文字書、コンテ・木炭・鉛筆を使った小型の書、漢字、ひらがな、カタカナなど多彩な表現が含まれています。中でも注目は宮沢賢治の「なめとこ山の熊」全文を写した14mの木炭書と全長約30mにもなる顔真卿の臨書。代表作はもちろん、これまで展示機会の少なかった大作も紹介する展覧会です。

井上有一の連作を体感できる展示構成

金沢21世紀美術館の展示空間に、井上有一の書がどのように展示されるかも見どころのひとつです。一字書の連作が、天井高12メートルの大空間に連続して並び、ダイナミックに展開する書の魅力を体感できます。井上有一の書と金沢21世紀美術館の空間とが出会い、これまでにない新たな書の世界をつくりだします。

関連プログラム

連続オープニング・レクチャー

井上有一の書の魅力とは何か、二人の論客が読み解きます。

[日時] 1月9日(土) Session ①13:30~14:45(開場 13:15)、Session ②15:00~16:15

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料 [定員] 各回とも先着50名(予約不要)

Session ①「井上有一を語る：書は万人の芸術である」

講師：海上雅臣(美術批評家)

生前の井上有一をよく知り、有一芸術をいち早く現代の表現として評価した美術批評家の海上雅臣氏が、書という枠に収まらず、伝統に縛られることのない、独創的で豊かな表現力をもつ一書の魅力を紹介します。

Session ②「井上有一作品の魅力を読み解く—オブジェ、キャラクター、オノマトペ—」

講師：栗本高行(多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員・美術評論家)

抽象絵画と関連の深い現代書批評で注目される若手美術評論家・栗本高行氏が、井上有一作品に溢れるイメージについて読み解いていきます。アートや言語学など柔軟で多様な視点から、有一作品を理解するためのキーワードを明らかにします。

芳賀徹×海上雅臣 井上有一生誕百年記念対談

2016年2月14日は、有一の生誕百周年となる、生きていれば100歳を迎える日です。それを記念し、前日にあたる13日に、有一をよく知る二人によるトークイベントを行います。

日本文学研究者であり芸術全般に幅広い見識をもつ芳賀徹氏と、有一芸術の唯一無二の深い理解者であり語り部でもある海上雅臣氏による対談。破天荒でいて、繊細な人間、有一の素顔やこれまでにない表現を戦後の書の世界に持ち込んだ改革者である有一の魅力を語り尽くします。

[日時] 2月13日(土)14:30~16:00(開場 14:15)

[講師] 芳賀徹(東京大学名誉教授・京都造形芸術大学名誉学長・静岡県立美術館館長)

海上雅臣(美術批評家)

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料 [定員] 先着50名(予約不要)

井上有一生誕百年記念茶会

[席主] 海上雅臣

案只会 海上宗棠

[日時] 2月14日(日)

[会場] 金沢21世紀美術館 松涛庵

※詳細は後日、当館Webサイトに掲載いたします。

今福龍太 レクチャー「〈筆〉と〈踏み手〉—井上有一と宮沢賢治」

井上有一の書は、記号と化してしまった文字(=ふみ)への不断の反逆です。言語が抽象的な記号体系に回収される以前の、古い身体的な「模倣」と「交感」をめぐる豊かな対話が、井上有一と宮沢賢治のあいだで交わられていました。「言語」と「身体記憶」の境界上に立ち上がる井上有一芸術の美について語ります。

[日時] 3月13日(日)14:00~15:30(開場 13:45)

[講師] 今福龍太(文化人類学者・批評家。東京外国語大学教授)

[会場] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[料金] 無料

[定員] 先着70名(予約不要)

ワークショップ

[講師] 北見音丸(一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守 参事)

[会場] 金沢21世紀美術館 キッズスタジオ

※詳細は後日、当館Webサイトに掲載いたします。

作家プロフィール

井上有一(いのうえ・ゆういち)

- 1916年 東京下谷二長町生まれ
 1935年 青山師範学校を経て東京市本所区横川尋常小学校訓導勤務
 1941年 上田桑鳩に師事(51年迄)
 1952年 墨人会を結成、機関紙『墨人』編集を担当(50号迄)
 1957年 サンパウロ・ビエンナーレ展に《愚徹》出品。ハーバート・リードに注目される
 1959年 カスパー・ケーニヒの推薦によりドクメンタ 2(カッセル)出品。ハーバート・リード『近代絵画史』に《愚徹》が掲載される
 1976年 神奈川県寒川町立旭小学校校長を最後に、41年間の教員生活を終える
 1985年 肝不全で没、享年69歳
 1986年 京都国立近代美術館に代表作62点が収蔵される
 1989年 京都国立近代美術館にて回顧展「大きな井上有一展」(巡回:埼玉、新潟、山口、福岡、愛媛、郡山の各公立美術館)
 1994年 アレクサンダー・モンローによる「1945年以後の日本美術一空に向けて叫ぶ」(グッゲンハイム・ソーホー/ニューヨーク, U.S.A)《噫横川国民学校》《無我》出品
 1995年 「YU-ICHI 1916-1985」(クストハレ・バーゼル/スイス)。カスパー・ケーニヒによりフランクフルト市内3つの美術館にて有一展同時開催。「井上有一 一貧」展(シルン・クストハレ/ドイツ)、「東京大空襲」展(カルメリータ・クロスター/ドイツ)、「経済成長」展(工芸美術館/ドイツ)
 1996年~2000年 カタログ・レゾネ『井上有一全書業』(全3巻、ウナックトウキョウ刊、海上雅臣編、杉浦康平造本)
 2000年 カタログ・レゾネ完結記念井上有一研究国際シンポジウム開催(京都、東京)
 2005年 「井上有一/ギュンター・ユッカー二人展」(ランゲン財団美術館/ドイツ)
 2013年 シャルジャ・ビエンナーレ 11(シャルジャ/アラブ首長国連邦)出品



出典:『週刊朝日』1956年2月5日号

出版刊行物

『井上有一 1955-1985』

生誕百年を記念し開催される最大規模の回顧展。1955年から1985年、30年にわたる制作の歴史を、初期から最晩年まで、各時代の代表的作品を集め紹介。また、各界の論客による井上有一論を通して、彼の芸術の全貌を捉えます。

[寄稿予定者] 海上雅臣(美術批評家)

今福龍太(文化人類学者・批評家 東京外国語大学大学院教授)

栗本高行(多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員・美術評論家)

北見音丸(一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守 参事)

秋元雄史(金沢21世紀美術館館長・東京芸術大学美術館館長)

[収録作品数] 約210点

[発行] 一般財団法人 世界紙文化遺産支援財団 紙守

[仕様] A4変形 ハードカバー・352ページ(予定)

[デザイン] 宇平剛史

[予価] 3,000円(税抜)

[発行予定日] 2016年1月2日

広報用画像

画像1～9を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジット(© UNAC TOKYO)の明記が必要です。

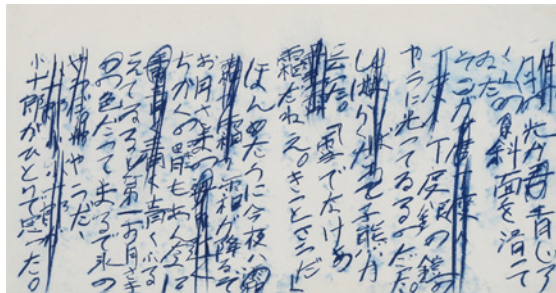
※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送り下さい。

※アーカイブの為、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願いたします。

2



《宮沢賢治童話 なめとこ山の熊》1985
木炭・コンテ・和紙、50×1407 cm
個人蔵

3



《愚徹C》1956
練墨・和紙、187×176 cm
国立国際美術館蔵

4



《心》1985
ボンド墨・和紙、143×182 cm
個人蔵

5



《上》1984
ボンド墨・和紙、137×180 cm
個人蔵

6



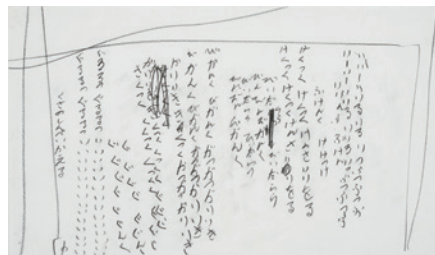
《鏡》1972
ボンド墨・和紙、125×180 cm
京都国立近代美術館蔵

7



《東京大空襲》1978
ボンド墨・和紙、各188×71 cm
群馬県立近代美術館蔵

8



《草野心平詩 蛙誕生祭》1983
鉛筆・和紙、32×55 cm
個人蔵

9



《噫横川国民学校》1978
ボンド墨・和紙、145×244 cm
群馬県立近代美術館蔵
(本作品は2016年2月14日までの展示)